Project	地域協働専攻　国際協働グループ
A02	**やさしい日本語で函館紹介プロジェクト**
メンバー	[学　　生]　横向　いず海/長峰　希/光井　聖奈/更科　明里/平野　真菜/船山　花野/古川　まゆ/永峰　匠/遠藤　秀馬 [担当教員]　伊藤　美紀

【背景】

函館の各観光地には案内板が設置されているが、日本語と英語で表記されている場合が多く、専門用語や比較的難易度が高い語彙が使用されている。そのため、全ての人に分かりやすいとは言えない。また、外国人の中には、英語が母語でない人や、英語よりも「やさしい日本語」の方が理解しやすい人もいる。そこで、このプロジェクトでは、市内の観光案内板を「やさしい日本語」を用いて、外国人に伝えようと考えた。

【目的】

このプロジェクトでは、函館市内に設置されている観光案内板の「やさしい日本語」版の作成を行うことを目的とする。同時に、本プロジェクトメンバーが難解な日本語を書き換える活動を通し、やさしい日本語への理解を深めること、やさしい日本語ユーザーに必要な教育マインド、複言語主義をはじめとした言語政策に対しての知識を身につけることを目的としている。

【概要】

このプロジェクトでは、まず、文献講読を通して「やさしい日本語」への基礎知識について学んだ。その後、函館市内に設置されている観光案内板のやさしい日本語版の作成や作成基準について検討した。函館市内の日本語学習者との交流から得た気づきや、フィードバックをもとに書き換え基準を順次更新し、53件の観光案内板をやさしい日本語に書き換えた。

【プロセスと成果】

前期は、庵他（2020）による論文集や文化庁による「やさしい日本語ガイドライン」を要約し、やさしい日本語に関する理解を深めた。また、メンバーの代表者がくろしお出版オンラインイベント「現場に役立つ日本語教育研究－経験からデータへ－」に参加し、日本語教育の初級では大量の文法と語彙が学習者の大きな負担になるという話から、使用する文法だけでなく、動詞もできるだけ絞ることが必要といった研究をプロジェクトに活かすポイントを学んだ。学んだことを活かし、「南北海道の文化財」ウェブサイトに掲載されている函館の観光案内板のやさしい日本語への書き換えを開始した。９月に理知の杜日本語学校函館校に訪問し、日本語能力試験N2からN3レベルの学習者の授業を見学し、学習者との交流を行った。私達が対象としているN2からN3レベルの学習者の授業を見たことで、私達が想像していたよりも日本語ができること、クラスごとのレベルの差が大きいことなどを学んだ。

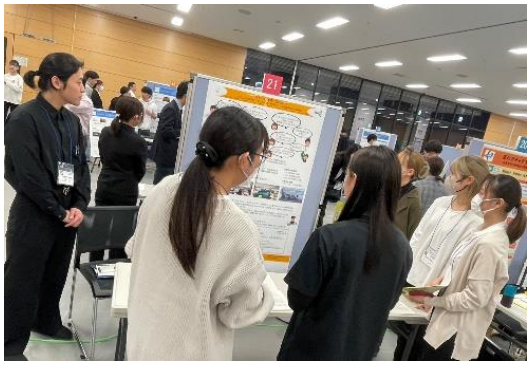
後期は、公立はこだて未来大学の奥野拓先生、田島鼓太郎さんから、自分たちが書き換えた観光案内板のやさしい日本語版を納品する際の方法を学んだ。11月3日には函館アリーナで開催された「HAKODATEアカデミックリンク2023」に参加し、それまでの自分たちの活動を学外の人にも知ってもらい、様々な意見を頂くことが出来た。12月と1月には、大原学園函館校の留学生と交流をした。12月には留学生の皆さんに、大学まで来ていただき、書き換えた案内板の文を読んでもらい、分かりにくいところ、分かりやすいところなどについてフィードバックをもらった。1月には、私達が大原学園へ出向き、留学生の皆さんのインタビューや質問に答えた後、ブラッシュアップした書き換えを読んでもらい、さらにアドバイスをもらった。その後、納品に向けて、個人での書き換え作業を進め、メンバー内で相互チェックを繰り返し、語彙リストを作成し、書き換えや注釈の擦り合わせを行った。授業時間外にも、進めた書き換えを随時伊藤先生に提出し、何度も添削をしていただいた。本プロジェクトの主な書き換え基準として以下の5点を挙げる。

(1)漢字すべてにルビを振り、敬体を使用する、西暦を使用する。
(2)主に旧日本語能力試験出題基準の3級・4級の語を使用する。
(3)一文・節の数を少なくして、一文を短くする。
(4)学習負担の少ない、高頻度の語彙を使用する。
(5)2級以上の語彙においては、もともとの意味が重要なものは書き換えずに注釈をつける。

【地域の留学生との交流の様子】

【総括と反省・今後の課題】

本プロジェクトでは、難解な日本語を書き換える活動を通し、やさしい日本語への理解を深めること、やさしい日本語ユーザーに必要な教育マインドや、国内外の言語政策に対する理解を深めるということを目指した。それにあたり、函館市内に設置されている観光案内板のやさしい日本語版の作成を行った。



【アカデミックリンクでの発表の様子】

前期は、文献購読を通して、「やさしい日本語」についての基礎知識を学んだ。文章をやさしい日本語に書き換える際には読み手への敬意を忘れてはならないこと、外来語は外国人には理解しづらいものであるといったことを学んだ。後期は、「ペリー提督来航記念碑」「中華会館」などの観光案内板のやさしい日本語への書き換えを行い、留学生からのフィードバックを受け、プロジェクトメンバーが難しいと推測していた語彙と学習者が難しいと感じる語彙にギャップがあったことから、「日本語母語話者」にとってのやさしい日本語と「日本語学習者」にとっての「やさしい日本語」は異なるため、実際に現場の声を聞き、やさしい日本語のニーズについて検討する重要性を知った。今後、やさしい日本語版の観光案内板を公開し、外国人観光客や日本語学習者の反応を受け、再度文章の書き換えについて調整していく必要があると考える。

【納品プレゼンテーションの様子】

【参考文献】

庵功雄(2016)『やさしい日本語―多文化共生社会へ―』岩波新書

庵功雄・山内博之編(2015)『現場に役立つ日本語教育研究 1　データに基づく文法シラバス』くろしお出版

森篤嗣編(2016)『現場に役立つ日本語教育研究 2　ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版

文化庁・出入国管理庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」

道南ブロック博物館施設等連絡協議会「南北海道の文化財」http://donan-museums.jp/

【地域からの評価】

連携してくださった学外の先生方から以下のコメントをいただいた。

「日本人でさえ理解が難しい文化財の解説を『やさしい日本語』に書き換える作業は、本当に大変だったと思います。みなさんの活動を見ていて、『やさしい日本語』は、社会問題を扱う他の多くのテーマと同様に、正解がなく、苦渋の選択を迫られる困難な取り組みであることを痛感しました。この活動で得た気付きや学びは、様々な道を歩むみなさんの将来において、必ず役に立つことと思います。」

――奥野拓先生(公立はこだて未来大学)

「私は日本人が考える『やさしい日本語』と、日本語がよくわからない外国人にとってのものとは大きくかけ離れた印象を持っていました。今回のプロジェクトでは、『簡単な日本語』ではなく、『易しくて優しい日本語』を外国人に寄り添って考えられたものであったと思います。ただ観光案内をわかりやすくというだけでなく、今後の地域の外国人に対する姿勢に影響する良いものであったと思います。」

――磯見真澄先生(大原学園函館校日本語課)

【年間スケジュール】

4月	前期のスケジューリング
5月	やさしい日本語に関する文献購読および文献に関連したオンラインセミナーへの参加
6月	やさしい日本語に関する文献購読
	書き換えデータの役割分担決め
7月	中間発表準備、発表
9月	理知の杜日本語学校函館校　訪問・見学
10月	はこだて未来大学　奥野先生とのミーティング
11月	書き換え作業
	アカデミックリンク参加
12月	書き換え作業
	大原学園函館校の留学生との交流会(於:本校)
1月	書き換え作業
	書き換えデータ納品プレゼンテーション
	大原学園函館校の留学生との交流会(於:大原学園)
2月	書き換えデータ最終チェックと納品
	最終報告書の作成

本プロジェクトでは理知の杜日本語学校函館校の協力もいただきました。本プロジェクト活動にご助言してくださったすべての方々にお礼を申し上げます。